

刊夕日三廿月二十



定額 一部全額ハ一月五拾五圓 郵費五圓
 廣告料 五圓以上 一週 一圓 一月 五圓 三月 十圓 半年 二十圓 一年 四十圓
 日曜 休日の 翌日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇
 印刷所 常磐毎日新聞印刷局 電話 六三〇

劇と音楽の態 [七]

磐城中学校 根本邦雄

文學と音楽との關係……未開人の原始的な音樂は『歌謠』から始つてゐるのが多し然し樂器として昔から有つた事だが樂器として多少其の形の整つて來たのは隨分文明が進んだ場合に限られざる。生蕃人やアイヌ人などは小さな口琴とが申す樂器を口において、舌を息で鳴らしてゐるのであるが其の曲としては實に單純でお話しに成らぬ程とされてゐるが、彼等が唄つてゐるものは可なり立派である。と云はれてゐる斯くの如き原始的歌謠では言葉が一種の音樂として唄れてゐるのであるから言語の抑揚及びリズムが音樂のものと相平行してゐるのが普通である。然るに文明が進むと文學的内容も複雑になり又音樂的形式も複雑になつて來る。こゝに於て兩者必ず一致すべきと考へられぬ。樂器が進歩して獨立した樂器が起つと之が歌謠の上に影響を與へる其處で言葉と音樂とが結びついた時に兩者の性質が一致出來ぬ場合が起つて來る。そこで音樂形式を主體とすると言葉に不都合を來し、言葉の方に主體とすると音樂的に不都合を來す。例へば長唄の如きは音樂的形式に重きを置いてゐるが、淨瑠璃の如きは文句一天張りに重きを置いてゐる。其れで音樂的形式に主體を置くものは之を『唄』と云ひ文句の方に主體を置く場合には之を『語る』と云ふ。淨瑠璃は唄ふと申さず『語る』と申し長唄の様なものに之を『唄』と申さねばならぬ事になる。

音樂的形式と文學とはどの位まで平行して行く事が出来るかと云ふ事に就いて古來學者が研究してゐる様であるが、歌劇は之を理想としたものであつて支那劇、西洋のオペラ、我が謠曲等は之に向つて一步を進めて居るものである。

最後に私達は『音樂は人生の行進曲』であり其の生活の『糧』であると申したのである。

士氣を鼓舞し、精神を統一し更に進んで情操を高め趣味の向上を謀るに與りて力あるものである。歐米諸國にあつては集會若しくは團體行進等には必ず音樂隊の演奏に伴ふとの事である。

これあることが如何に其の集會及行進に春風駐蕩の氣分を漂はせ行進を勇壯活潑にするかは全く想像以上と考へる。

願はくば斯く如き我々の生活に對する良き音樂が生れ其れ等を普及して正しく利用しなければならぬ。社會教育の本質に鑑み主張力説するは『正しき音樂の理解と其の運用』である。

(完)



試作三篇

矢吹博信

〔和歌〕
 我れは行く與へられたる細道を味はんだため。悲しまんため

〔俳句〕
 蟲なけり晝間かりたる草の中

〔童謠〕
 家の子猫は可愛い、子猫晝寝の部屋でやつこらさつと

親猫行司で角力とる

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

新年繪はかき クリスマスカード 博文館常用日記 かるた トランプ

例年の通り豊富に取揃へました 御贈答用として

商品券(マルトモ食堂)共御利用願ます

柴田書店

平町 電話 四三二 五八二
 町 電話 四三二 五八二
 目番 (五八二) (四三二)

貸切は●●●

セダン揃ひで 貸切専門の 昭和タクシーへ

電話 三四三

喪中に付歳末年始欠禮 可仕候

平町城山杉平四ノ一 小野房吉

平町通電話六五六番

玉屋洋品店

今年も クリスマスのプレゼントは どうぞオモチャのいづみやへ

珍らしい變つたオモチャや、お正月のお進びもの澤山入荷致しました 立派な寫真が誰にも撮れる!!!

お正月の楽しみは何んと云つても カメラが第一

安くて簡單によく寫るので大評判

いづみやの小型カメラ

小型判 一組 五十錢より
 ベスト判 一組 二圓より
 名刺判 一組 四圓より

各種 回只今最新型カメラ澤山入荷! 第四回懸賞寫真募集

お正月 一ヶ月二十日 模型飛行機材料はいづみや玩具店

御挨拶

肅啓時下向寒之候各位益々御清祥に涉せられ芳賀な事に奉存候陳者小生儀今般左記の個所に寫真館開業仕候何卒倍舊御答願御引立に預り度設備技術ベストを謁して御用命に應じ度御愛顧の程幾重にも泰懇願候 敬具

追て一々拜趨御挨拶申上可きの處不取敢紙上を以て如斯に御座候 諸橋嘉吉

最新式電機應用の嶄新なる撮影法で 必ず御満足を期します

晝間夜間共何等の變りなく撮影が出来ます

出張撮影も迅速に致します

料金は開店披露のため特別割引致します

業務種目

ボート レード 平町田町 丸新デパート

工業 業 寫真 眞 眞

高級ストロカード 眞 眞

共他 寫真 眞 眞

寫真館

決算期に迫られて

四苦八倒の納税組合

△成績の良のは甚だ少い

悲喜劇續出

平町各町の納税組合はいづれも決算期に迫られその拂戻に就いては

色々な悲喜劇が演ぜられて居るが町役場が調査した處に依ると大部分成績が餘り香しからぬ状態である組合員は年末と正月の費用にと掛金の拂戻を期待しては居るが決算日が待ち切れずに前借する者が多い爲めに決算日には拂戻處か反て帳尻は借金が残り明年よりは

- 正豫算の件
- △區長及代理者推薦の件
- △教員退職慰勞給與の件
- △寄附採納願ひの件
- △町村地及縣道使用許可の件
- △縣社子鐵倉神社手洗水給水の件

石城郡出身 平町各種 身在滿兵 團體募集 慰問金品 本日現在

掛金を増さなくてはならぬのや割合に高い組合の利子で首が廻らず脱退する者續出の様で昨年末百十七組合を算したのが本年は百一組合に減少して居り尙解散せなばかりの組合が多いので町當局も納税組合によらぬ税金徴集の

困難を思ひ対策を協議中である

最終町會の協議事項

平町役場では本年最後の町會を廿六日午前十時より會議室に開會左の事項を協議すると

△昭和六年度平町歳入出更

- 堤ノ内扱 (二十錢) 大塚武雄 山本龍次郎 深谷喜八 鈴木正吉 佐久間大五郎 深谷啓次郎 梅本櫻吉 大塚吉造 鈴木徳三郎 竹島清次郎 大塚ヒサ 深谷辰五郎 大塚藤吉 深谷ムメ 深谷タキ 丹野金藏 難波甚藏 (十錢) 深谷市三郎 井出庄松 深谷サツ 大和五平次 近野要吉 深谷ノエ 小松初太郎 深谷タミ
- 北目町扱 (一圓) 新井浴造 石川徳太郎 赤羽鐵太郎 (七十錢) 猪狩忠喜 (五十錢) 角海重太郎 佐藤繁 櫻村三男吉 草野金二郎 柴野房太郎 鈴木久二 大谷清作 大沼フジ 鈴木

- 民治 大谷榮造 市瀬森之助 宮島太吉 叶多ツヤ 駒場ノブ 鈴木龍夫 中根好孝 (四十錢) 永井吉之助 (三十錢) 鈴木喜一郎 猪狩政次郎 古市繁 加藤興四郎 鈴木福司 (二十五錢) 鈴木良平 (二十錢) 山本アサノ 館岡ノエ 添田義雄 廣澤博 仁田半八 大輪喜代治 馬場増太郎 田中芳太郎 無名生 森山勳 中根享 萩野春治 矢野庄吉 清水礦市 草野一郎 (十五錢) 渡邊長重郎 (十錢) 高木良一 和田ゲン 谷地壽吉 秋元時之助 川島キク 平田忠吾 清邊丹治 湊紀七郎 志賀忠清 小溝大次 小田木清五郎 佐竹福治 久保明扱 (一圓) 永山和 橋本元吉 (五十錢) 蛭田光一 長澤貞雄 山名久吉 佐藤龍一 古田部春吉 會川延太郎 佐藤信儀 先崎清作 山誠一 荒川恒次郎 青木榮吉 永山義太郎 (三十錢) 豊田久雄 沼田秀吉 遠藤彦治 齊藤廠夫 草野代善 宮内喜忠 佐藤昌訓 米本富藏 山本良作 荒川千代造 松本留之助 伊藤岩吉 荒川直一 漆原富一 (二十錢) 河原寅藏 古

- 田部藤吾 金澤ヲフ 國井甚太郎 四家ムメ 鈴木金三郎 芳賀御次郎 富岡廣之助 甲高榮一 小林徳松 鈴木未儀 渡邊嘉知 羽田金三郎 永山一 柴田良吉 古田部熊次郎 大槻善次郎 秋山貞次郎 郡司久彌 二片誠一 酒井國太郎 東海林龜作 田母神精一郎 吉田嘉久 青木甚平 大井川和郎 青木マヌ 鈴木鶴次郎 中里虎男 渡邊政孝 根本菊 木村淺義 黒屋勇 (十五錢) 吉田藤四郎 石井龜次郎 坪井峯治 志田セイ 佐藤浪恵 大内藤四郎 菊地長五郎 川島利道
- (十錢) 猪俣一 平井逸二郎 伊藤勇吉 徳田ツネ 植木善吉 大庭フヂイ 鈴木アサ 甲賀茂三郎 齊藤アキ 田巻源三 堀要三 三浦辰雄 櫻本菊藏 安達米吉 齊藤拾治 黒澤定三郎 小野邊松三 馬場豊 羽田庄太郎 蛭田大治 神場源次郎 鈴木幸作 渡邊初一 小柳勇 猪狩悦子 吉村專十郎 永山トヨ 武石トヨ 鈴木フエ 佐々木勝保 坪山清吉 檀瀧重雄 野崎平次 馬場喜太郎 山野邊兼三郎 (眞綿二十枚) 八子光平 (ガーゼ二ツ) 佐藤清好

前月に比較して

二厘方騰貴した

平町の小賣物價

金輪再禁後の平町小賣物價相場は役場の調査發表によれば前月に比較して二厘の騰貴を示して居る昭和五年の平均金額を一〇〇とする指數で示せば十一月十六日現在八五、〇であり今月は八五、二でその差〇、二となつてゐる。

食料品では一分四錢、燃料では一分二厘値下りだが衣料及び身廻品は三分七厘、建築材は三分二厘、雜品は九厘の値上りとなつてゐる。

調査品数は九五品内騰貴一六、下落九、保合七〇で類別すれば 騰貴 下落 保合 食料品 六 八 二〇

平町役場では廿七日午前十時より會議室に於いて臨時出納検査を行ふので立會人として左の町議に出席を求めらる事になつた

青沼鋒太郎 坂本隆藏、佐々木龍若 萩原義雄、野崎滿藏

石坂氏辭職

後任は柏原氏

平消防組々頭代理石坂詮大郎氏は今回辭職した爲め後任として柏原幸次郎氏の任命を見たが是れと同時に役員に多少異動を生じ左記の如く決定した

(小頭)堀江正茂、佐川三郎(伍長)片寄紋大郎、菊多萬吉

往來

- △白井博之氏 廿二日午後三時平發にて東京へ
- △縣議員井上茂作氏 午前八時半發列車で小川へ
- △前縣議員古川博一氏 右同
- △元代議士安島重三郎氏 右同
- △鷺植田町長 廿三日八時着列車で來平
- △巖谷小波氏 廿二日午後五時十分發歸東京

平町人事

結婚

- △横濱市中區本牧町字台鈴木博人(二九三丁目)大谷澤江(二四)
- △死 亡
- △揚土二四 當時東京府下荏原町字戸越山本喜久子(二二)

冬服貯蓄

紺色柄物... 三ッ揃... 拾貳圓

最新柄スコッチ... 三ッ揃... 拾三圓五十錢

最上紺黒... 三ッ揃... 拾六圓五十錢

高級品... 三ッ揃... 拾九圓

平町正札堂洋服店 電四三六

セメント 磐城セメント株式會社

壁用材料

コーンタール

ペンキ塗料

板ガラス

代理店 西村屋藥舗

平町二丁目(電三)

遣り悪い 歳末商戦

思ひ切つた 特價提供も 依然回収が困難

金詰りの歳末に一時でも早く商品の資本化を計るのは無理はないとしても平町内各店が仰々しく店舗を飾り今から……

待ちあぐむ

お巡さんの……
ポーナス

他官吏にくらべて年がら年中薄給でいざとなれば火の中水の中でもとびこまなければならぬ職務にたずさはりギリギリの生活をしてゐる割合に無慾でん淡な警察官も他官吏のストーブ會議がポーナスの増減如何かと駄辯を弄してゐる時平署員さん達は黙々として事務をとつてゐるがポーナスは此廿八日ころ渡るらしい昨年は平均約五割だつたが今年はその瀬に内閣が變つて大養景氣が出たといへ不況が影響して二三割であるがそれでも喜んで喜色を満面にうかべあれを買ふか何買ふかとストン節じやないが今から目鼻を立てゝゐる立てゝ歳末賣出しを始めたのは近年になく

蒟蒻販賣に 警東銀行利用

石城郡山田、上遠野、入遠野、植田、錦、田人、菊多

早手廻しである物の値段も政變以來高値を呼んで呉服物などは一反に五十銭高としたが人氣を引く爲めに時折特價提供と銘打つて思ひ切つた割引きをして居るのは商賣も上手になつた、然し資金難、回収難は依然として居る

月末拂ひ

の各家は三分の一拂ひが上等の部で、酒屋、八百屋、魚屋、米屋その他日用品販賣店の苦し

歳晩の犯罪防止

廿五日から平署總動員

平警察署では歳末に際し例年の如く動員し犯罪防止のため来る廿五日から歳末特別警戒を行ふ事になつた

さうり速成 植田町 栽培を實行 には農家の副業としてさうり速成栽培を今冬から實行し既に百わくに種付し早いもので發芽を見て一兩日には第一回の假植をする運びとなつてゐる目下の所發育順調で來年五月から六月にかけて收穫出来る見込みである同町におけるこの計畫は最初の事であり又共同出荷組合

産業組合の 設置を要望

未設置村落に

石城郡下における産業組合は現在廿五組合を算してゐるが未設置の村落七、八ヶ町村あるので部會ではこれが設置を要望してゐる

ハサミを猫婆

石城郡神谷村字中神谷鈴木榮吉(六〇)は廿一日午後三時頃隣村平窪村境勝負坂内山道で平窪村字石森小泉今朝太郎(五)所有の米國製アニマルトラップ鉄(時價五圓)を拾得したが其れを猫婆をきめ自宅持歸つて使用して居た事發覺遺失物横領罪として平署に檢舉された

村平窪村境勝負坂内山道で平窪村字石森小泉今朝太郎(五)所有の米國製アニマルトラップ鉄(時價五圓)を拾得したが其れを猫婆をきめ自宅持歸つて使用して居た事發覺遺失物横領罪として平署に檢舉された

一二重正月廢止 石城郡好間村古河炭礦會社では新舊二重の正月を行はず新曆正月のみと爲す様従業員に申渡したが警署、入山等の會社でも同様の方法を取

野火を焚いて 闘鶏賭博の最中

平署の手入れ

石城郡内郷村大字宮宇宮澤山地の廣場にて昨廿二日夜八時頃十數名の者が野火を焚いて闘鶏賭博を行つて居るのを駐在所員が聞込み平署の應援得て包圍し一網打盡に檢擧せんとしたが夜の事とて混雜に乗じ逃亡せし者有り漸闘鶏を所持して居た湯本町入山竹澤寛四郎外横田三吉、小提市太郎、羽會部仙吉、山田仙松、谷野留吉、永井七太郎の七名を取押へ今朝平署に押送目下取調中である

年若い狂女 誘拐されたか?

平職業紹介所報告

石城郡好間村字北好間鈴木米次の三女キヨ(二九)は本年三月頃より強度の神經衰弱に罹り時折家人に無断で飛出しては村内を徘徊するの豫てより家人が監視中廿一日午後四時頃家人が不在中飛出し行衛を晦した今が回は村内を徘徊した模様もないかと平署へ捜査願を出した

求人部

△女中、二十才前後 住込 月給面談(播磨小路某)

△料理下働女、三十才以下 給料面談(三丁目某料理店)

△雑役男、四十才以下 給料面談(二丁目某料理店)

△求職の部

△商店雑役、廿七才高一修 通勤望日給六七十錢(南

明日のラジオ

廿三日

今晚も明日も北西の風晴れたり曇つたり

今晚の部
後六、〇〇(子供の時間) お話「ドイツのクリスマス」 テキスト一六ページ
山田耕作
後六、三〇 家庭電氣講座 「電氣の醫療的效果」 田村春吉
後七、三〇 座談會「本年

明日の部
後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報
前九、一〇 料理献立「廣

共平第三小學校卓球部へ申込まれたいと

年末年始休山 常磐

地方各炭礦は恒例により卅一日より一月一、二、三の四日間年末年始の休山とすることに決定した

信榮の降誕祭 平町

材木町信榮幼稚園では明廿四日午前十時からクリスマス会を催すので園児達は當日の出演練習に餘念がない

難波醫院

平町新川町
【釜屋新毛向】
電話五〇二番

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

美味! 芳醇!

町某
△雑役、四十九才 尋五修 通勤望(新川町某)

東煮「小野寺嘉祝
前一〇、三〇 家庭講座「主婦の心得」佐伯志津代
〇、〇五 琵琶「靈馬の健一」川原旭風
後二、〇〇 婦人講座 上田恭輔
後六、〇〇 講演「東北の凶作地をめぐりて」加藤重六
後六、三〇 講演「クリスマス」井深棍之助
後七、三〇 「クリスマス」の夕

小説



【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

怪しの手紙 (3)

婆さんは急いでちらりと横目に見ながら立揚がつた。そして椽側へ出て手洗鉢の水を柄杓でがらりがらりとかきはじめた。

『私お茶を戴きませわ。奥さま何か甘い物があつたらお出し遊ばせよ』

『お出し遊ばせは恐縮ね。其處の棚に家から持つて来た虎屋の磯子鳥があつた替よ。勝手にいゝから出してお上り』

『磯子鳥と申しますと、あの何でございますか宮様の御用菓子とかいふ大きなね、おいしうございましたわね、あれなら奥様三つづらに換されたつて戴かずに置きやしませんよ……あ、御座いました、オホ』

婆アさんは小面憎い女だと思つた。そして替められ切つてゐる奥さまは余程おめでたいものだと思つて笑つた。頓て茶をすゝる音がしてから
『お前歸つたらね。あの方をしつかりやつて呉れなくちや困るよ。いゝかい、成功すりやまた賞與を上げるから、そのつもりでね、頼んだよ、いゝかえ』

『え、大丈夫ですよ、奥様御安心なさいませよ、手前がお付き申して居れば大丈夫、萬事はアハ、ハ、ハ、』
と何やら双方堅く理解し合つたやうな笑ひ聲婆アさんは何にが何にやら益々得體が知れないお竹の返辭と言

『さまは何時お歸りになります。』
『呼びに来れば、明日にも歸つていくけれど、まア當分は歸るやうなことはないと思ふのよ。然かし若しあの事が定つたら、それは明日にも歸るつもりだよ』
『成るだけ然うしてゐらつしやいませよ、あちらの方は私が萬事確かに引受けをして必要のあつた時にお密告しますから。』
『あ、然うして頂戴』
聲を落しての内所話であつた。婆アさんは聞終つて



ひ、奥様の頼みと言ひこれには深き理由のあることを合点した。
『アノ夫れ、川島にもこつそり話して頂戴、此處が重大な時機なんだからぬかりのないやうにツてねい、こと。ねえ。』
『長くなりました。すると奥

手洗鉢の水を取換るべく臺所へ退つた間もなく、お竹は別荘を立出たとして借樂園に待たせてある男と連立つて東京へ歸つた。その男はやはり十文字高層の若い店員であつた。
紅い日は沈んだ。
夕響を済まし、椰子夫人は

パイオリンを手に若葉しげる庭園のなかをそとろ歩きして、スキートアンドローの曲だの越後獅子だのを奏でた。かくして只一人遺瀨ない寂しさを花ちる薄月夜に慰むるもの、様に見えた。ちやうど八時過るころ別荘守の小舎にどこからか車夫が使に來た儀平は直とそ跡から立出で、電車終点地の八幡橋へ行つたと橋の上になら／＼してゐた一人の洋服男が自敏くその影を見て
『おい。此處だ』
と差招ねいた。儀平は小股走りに駆寄つた
『いやア、旦那、昨晚は大きに有難うございました。あんなに澤山頂戴しました。何ともハア、お氣の毒さまなことで……』

均一大賣

店頭十餘均一の出
是非御來店を……
電二一四番

マツモトヤの

大塚の
學生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……
大塚支店製靴部
電話七七番

看護婦急派の求めに應じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

今度の御調髪は是非どうぞ……!!!
明るい感じ! 滑々しい電氣
バリカンの爽快な刈込み……
氣持よいシヤンブー電熱アイロン
電氣マツサージの上品な仕上げ
□キツト皆様の御氣に
召すで御座いませう……
□是非一度御光來御調髪の程お待ち
申上げます
平町田町 石崎理髮店
大床號
電話一八八番

榮業所開設
倍舊の御引立相仰ぎ度奉懇願候
芳醇銘酒
白馬の雪營業所
平町二丁目一
辰ノ口本家 松本徳一
電話 五四六 管業所
二八五 本店

キユのバクハ

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

井の
手切商品
三番
時計眼鏡
トキワヤ
平一・電三三九